

(書式1)【候補者用】

① 立候補者の 姓名と所属	姓名： 米田 稔 所属： 京都大学大学院工学研究科都市環境工学専攻
② 立候補の理由と 抱負（400字程度）	<p>2011年の福島原発事故以来、リスク研究者以外にも様々なリスクの存在を認識し、政策判断においてリスクを検討するケースが増えているように感じられる。しかし、その認識方法はまだまだ感覚的なものも多く、リスクトレードオフの存在下での論理的判断、最適解の探求からは離脱しているものも多いと思われる。今、我々リスク研究者は、より多くの人々の生活をより良いものにするを目的として、リスク学の社会実装を目指して努力すべき時ではないかと考える。私はリスク研究者の日本随一の組織である日本リスク学会がその使命を果たすために、大きな貢献をすべきと考え、6年前に本学会理事に立候補し、理事に選出させて頂いたが、まだまだ十分な貢献ができていない。今後も以下のような抱負を実現することを目指して、理事へ立候補する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. リスク教育体系の整備において、本学会の立場を明確にし、指導的立場を確立する。 2. 様々なリスクの削減のために、国や人種の壁を越えたりリスク研究者の協力体制、特にアジア圏でのリスク研究者らの連携に貢献する。 3. 学会誌の国際展開を進め、特にアジア圏からのリスク研究に関する論文の投稿先としての地位を確立する。
② 本学会における活動歴	<p>本学会創立時からのメンバーである森澤眞輔元理事のサポートをする形で、長年に渡って、本学会の研究発表会の運営などに関わってきた。連名が多いが、今までにも10編以上の研究発表を本学会研究発表会にて行っており、本学会の研究発表会やシンポジウムが京都大学で開催される場合は、常に実行委員としての貢献を果たしている。4年前からは本学会理事として編集委員会の査読委員長として活動し、この2年間は学会の副会長も務めている。</p>
④ 研究歴・職歴等 (100字以内)	<p>(研究歴) 土壌・地下水汚染のリスク評価や、環境放射能被ばくリスク評価などの研究を行ってきた。</p> <p>(略歴) 1985年：京大学工学部助手 2000年：京都大学工学研究科助教授 2007年：京都大学工学研究科教授</p>

(書式2)【推薦者用】

① 推薦する候補者名	米田 稔
② 推薦者の姓名と所属	島田 洋子・京都大学工学研究科
③ 推薦理由 (400字程度)	<p>候補者は、生活環境中の有害化学物質について、細胞実験による毒性評価、環境モニタリング、環境動態モデル、曝露評価モデル、生理学的薬物動態モデルなどを組み合わせて、有害物質の摂取から健康影響発現までをモデル化し、リスクを定量評価する枠組みの構築に取り組んできた。また、2017年度と2018年度の2年間は、産官学連携組織としての特徴を持つ環境放射能除染学会の会長として、福島の放射能汚染問題の解決にも携わり、さらに2019年度と2020年度には、土木学会の分野横断組織である地球環境委員会の委員長として気候変動リスクの評価と対策などにも携わっている。このように候補者は分野横断的な組織の中で、リスク研究の社会実装にも携わってきており、これらの経験は本学会の今後の運営にも貢献しうるものと確信している。さらに、6年前より当学会の理事に選出され、機関誌の編集委員長（査読担当）として学会誌の編纂を担当しており、学会誌の国際データベースへの掲載を目指して、編集方針の改定などに努力している。またこの2年間は学会の副会長も務めており、今後も本学会を主導する立場となることが期待できる。以上より、候補者は本学会の理事として適任であると考え推薦するものである。</p>